

10 マッチング（組み合わせ）

譲渡希望者と子犬をうまく組み合わせ、双方が幸せになれるペアを作るのがマッチングです。希望者の飼育環境やライフスタイルに合った犬を選んでもらうことが、譲渡後における適正飼養の第一歩です。逆にマッチングを誤れば、問題が起き、最悪の場合いったん譲渡された子犬がセンターに戻される、というケースもあります。

譲渡希望が一匹に集中したような場合、抽選は公平な方法ですが、譲渡される子犬のその後を考えると、できるだけマッチングを重視した譲渡が理想です。

マッチングを成功させるためには

1

譲渡希望者の生活環境やライフスタイルをくわしく聞いておきましょう。

2

子犬の性格を把握し、また成長後のサイズの予測もしておきましょう。

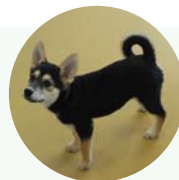
3

譲渡会で、実際に子犬を見てもらいながら、的確にアドバイスしましょう。

マッチングの例

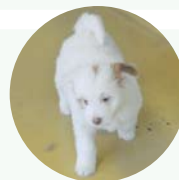
■ 興奮レベルの高い子犬の場合

活発で常に興奮している子犬は、犬舎や譲渡会で多くの人の目を引きやすく、譲渡希望者が「元気でいい」と選びがちな存在です。ただし、「活発でとても元気」という子犬は、反面、興奮レベルが高く、いたずらや甘噛みも激しく、運動量が相当必要になるということです。こうしたタイプには、散歩や遊び、トレーニングなど、犬に多くの時間を割くことができ、犬との生活を積極的に楽しめる家庭が向いています。子どもがいる家庭なら、その子供も元気活発で、子犬の少々のはめげないタイプならいいでしょう。一人暮らしや、高齢者、また留守が多い家庭には不向きです。



■ ノーマルな子犬の場合

子犬としては、比較的落ち着いていて、譲渡会では、活発な犬にワンテンポ遅れて人に近づいてくるようなタイプです。特に不向きな家庭というのはなく、初めて犬を飼う方や、高齢者がいる家庭に勤めてもいいでしょう。ただし、成長途中の子犬なので、譲渡後の扱い方やケアで、今後の性格形成に影響が出ます。しつけ方教室への参加などを通して、適切な飼育方法を学ぶことの大切さを伝えてください。



■ シャイな子犬の場合

譲渡会では、人に対して積極的によってくることはなく、離れたところからみていたり、人に近づいてもなでようとする後ろに下がってしまう、といった反応をみせます。こうしたタイプには、子犬の性格を理解し、気長に犬のペースに合わせて飼育してくれる、大人だけの穏やかな家庭が向いています。常にやさしく扱い、十分なケアを行ってくれる人には非常によくなつき、よき家庭犬となるでしょう。逆に、犬といろいろな場所に出かけたい人、お店の看板犬にしたい人、来客が多い家庭等には不向きです。子どもがいる家庭も向いているとは言いがたいですが、どうしてもという場合には、犬と穏やかに接することができる子供かどうか、見てみましょう。



■ すでに先住犬のいる家庭には

まず、先住犬に不妊去勢手術が施されているかを証明書などで確認。その上で、先住犬の性格を聞きましょう。他の犬に対してシャイな犬なら、子犬が入ることによってストレスを感じてしまうかもしれませんから、譲渡はみあわせたほうがいいかもしれません。二匹の関係がうまくいくかどうか、トライアル期間（1週間程度）を設けてみるのもいいでしょう。

なお複数飼育の場合、比較的、異性同士のほうがうまくいくようです。



■ 高齢者だけの家庭には

犬の寿命、人の体力、また雑種の子犬は成長後どの程度の大きさになるかわからない、などの点をまず十分に説明し、その上で、穏やかな性格の小型の成犬などを薦めるほうが適切でしょう。なお、神戸市では子犬を譲渡する場合、新しい飼い主の年齢を70歳未満までと要領に定め、65歳以上の方には、犬を飼えなくなった場合に、65歳未満の同居者もしくは近隣に在住の親族等が代わって犬の管理を行うことを誓約する文書を提出してもらうようにしています。



■ 留守が多い家庭には

一人暮らしや夫婦共働きなど、留守の時間が多い家庭には、子犬の飼育には手間と時間がかかることを十分に説明しましょう。

そのうえで、子犬ではなく、性格が安定していて、長時間の留守番も無理なく受け入れられる性質の成犬を薦めるのもいいでしょう。



■ 外飼いを予定している家庭には

犬を外で飼うと、さみしくて吠える、警戒吠えをする、さらに不安と恐怖が募ると攻撃に転じるなどの問題が出ることもあります。住宅密集地などでは、特にそのリスクについて説明しておきましょう。また、子犬の場合は、健康上の理由からも、安定した性格に育てるという点からも、ある程度の期間は必ず屋内飼育をするのが望ましく、神戸市では、おおむね1歳程度までは屋内飼育をするよう指導し、自宅訪問調査時に飼育場所の確認を行っています。どうしても最初から外飼いを希望する家庭には、これまでずっと外で飼われ、吠え声などの問題が起きていなかった、性格の安定した、中型以上の成犬を薦めるのもいいでしょう。



神戸市では、譲渡希望者すべてに対して、市の職員と神戸市動物愛護推進員（CCクワ所属ボランティア）が分担して、事前に家庭訪問を行なっています。申し込み時の提出内容の確認に加え、特に飼育場所（脱走防止、風雨や暑さ寒さ防止、危険防止等が適切にできる場所かどうか）に注意して調査しています。この調査報告を受け、市が譲渡可、条件付可（犬種、犬の大きさ、犬の年齢の限定等）譲渡不可の判断をします。適切なマッチングをするために非常に有効な方法といえます。

神戸市 事前訪問調査

事例⑦